

ワークショップを実施して p.35

福島県喜多方市山都地区

浅見彰宏（特活）福島県有機農業ネットワーク 理事・事務局長、ひぐらし農園主宰



旧山都町は平成の大合併の際に喜多方市と合併した。その後、旧喜多方市が行政施策等の中心となる中で、山都地区は周辺化されていくなんとかしなければと思っていた。地域の力診断ツールのワークショップを山都町で行った最大の効果は、自分たちの地域を考え直す良いきっかけになったということだった。

比較的地域のことをよく考えている人たちや団体の方々に集ってもらった。日頃、自分たちの職業に関わることについてはよく考えているが、地域の足元を見ることは少ない。リーダーの有無によって、地域間格差が出てきていると思うので、今まで何かやらなければと思っていた人々にとってもワークショップは良いきっかけになっただろう。終了後の懇親会の中でも、いろんなアイデアが出てきて活気づいた。診断ツールは今後改訂を重ねつつ、他の地域にもどんどん持ち込んで行く中で、新しいアイデアが出てくることを期待している。

日本中どの地域も縮小している。江戸時代から続く山腹水路からの農業用水により棚田を維持してきたが、農家の減少に伴い、水路を維持することが難しくなってきた。都市の人々に堰浚いのボランティアとして協力してもらうことで、水路の維持管理を行う取り組みを続けている。ボランティアの人にはお米やお酒も買い支えてもらっている。ボランティアの人数は毎年約50名、関係者はトータルで数百名にもなるが、年間に消費するお米や農産物の1割でもその方達に買ってもらえれば、大きな力になる。そのような経済的なつながりがこれからの課題と感じている。

最近、山都にも、若者の宿泊が増えてきた。彼らは将来に対する不安をものすごく感じている。そして、田舎に息づく生きる力に惹かれているように思われる。「会津留学」と銘打ち、生きる知恵や技術を学べる場を作っていきたいと考えている。空洞化した社会の中で人間性を取り戻すことができれば良いと思っている。



会津留学
(写真:会津留学 Facebook より)



上堰米のお酒
(写真:本木・早稲谷堰と里山を守る会 Facebook より)



第19回 山都寒晒そばまつり 地方の方によるそば打ち

ワークショップに参加して p.36

ワークショップに参加した皆さんからは、「参加して良かった」等概ね好い評価をいただきましたが、一方で「もっと時間があれば、地域の課題を出し切ってより具体的な取り組みにつなげられた」等、より良いワークショップ運営につなげるべきコメントもいただきました。以下では、参加者の皆さんから寄せられた診断ツールやワークショップ等に対するご意見や感想を紹介します。

<診断ツールについて>

- ・ 地域の問題について、数値化することでより深刻に考えることができるので、ツールは参考になりました。ただ、主観が入るので日頃の感じ方(楽観的か悲観的か)によって数字は大きく変わってしまうかもしれません。(山都地区)
- ・ 診断ツールの設問は答えやすく、数字を見て気づきかけとなり良いと思います。年齢や性別で、どのような差が出るのかという点も気になるところです。(山都地区)
- ・ 普段考えていることを整理できたことが良かった。面白かった。/ テーマを持って話あいができることは良い。(東和地区)

<ワークショップについて>

- ・ あたりまえとして見過ごしている地域を見直す視点をワークショップはもたらしてくれました。(山都地区)
- ・ 課題に対する改善案が具体的に出てきたのでとても良かったと思います。これを機に新しい関わりが増えればと思います。(山都地区)
- ・ 外部の目が入ることの重要性を感じた。(東和地区)
- ・ ワークショップの場に来られない人をどのように巻き込んでいくのかを考える必要がある。(東和地区)
- ・ みんなで取り組む参画力の大切さを感じた。(東和地区)
- ・ 異なる地域同士でワークショップを行うのも意義があるのではないか。(東和地区)
- ・ 自分の集落でもワークショップをやってみたいと思った。/ 高齢者ワークショップはどうでしょう。(山都地区)

<地域について>

- ・ 現在かろうじて保っている棚田の景観を今後どう維持していくのか、5年後を考えると不安 / 若い人にどうつなげていくか(東和地区)
- ・ 発信力は十分と思われるが、さらに努力する必要がある、インターネットを使った発信に期待している。(東和地区)
- ・ 山都の力を感じたワークショップでした。蕎麦の栽培面積が90ha以上で、100人以上の生産者が関わるすそ野の広さを感じました。しかも20軒以上も蕎麦屋さんがあり、4億以上の経済効果は素晴らしいです。この強みを活かし、地域おこし協力隊等の新しい風を期待したいです。素晴らしい地域資源(山林、飯豊山、蕎麦等)をツールにおとしこんでほしいです。(山都地区)

<その他>

- ・ 「地域の力」とは、今がんばっている人ががんばること！それがとりあえず一番大切。(東和地区)

主観的幸福度に関するアンケートから p.37

「地域の力」診断ツールでは、地域を診断する6つの分野に加えて、地域の暮らしに対する主観的な満足度をうかがい、診断結果との関係をみることで、「地域の力」を総合的に考えていきたいと思っています。アンケートでは、その地域に対する愛着や誇りについてうかがうとともに、これからも住み続けたいか、子どもにも住み続けてほしいかをお聞きし、最後に「あなたの考える幸せな地域とは」をお聞きしています。以下に、記述回答をしていただいた、地域の中で愛着や誇りを感じる部分と幸せな地域像について紹介します。

<どんなところに愛着を感じていますか>

- ・ 豊かな自然、伝統的な景観、山里の風景、子どものころからの記憶に残る風景、生まれたところ、自分の故郷、季節ごとの楽しみがある
- ・ 人情の良さ、人とのつながりの深さ、仲間、地域コミュニティ、地域内交流、移住者を仲間として受け入れる心の広さ
- ・ 食の豊かさ、農林産物、山都蕎麦（地域おこし）

<どんなところに誇りをお持ちですか>

- ・ 雄大な自然、伝統的景観、歴史のある山々、先祖伝来の土地や文化が脈々と守られているところ
- ・ 各方面で頑張っている人がいる、地域づくりを考えている人がいる、豊かな人材、住人が良い、活動の協力者が多い
- ・ 都市部の方々が、自然や棚田の景観、農産物などをほめてくれること、県内外から来てくれる人が多い
- ・ 独自の地域づくり、自給自足のできるところ

<幸せな地域とは>

- ・ みんなで互いに支えあう地域、弱者に対して配慮できる仕組みのある地域、一人ひとりが地域で暮らす価値を感じられる地域、一緒に夢を語れる地域、地域の活力となるような夢や希望を持った人々があふれる地域、自分も周りの人も生活の心配のない地域
- ・ 出きる限り地域内で自給自足できる環境の整った地域、お金の頼らない生活のできる地域、都会の金銭感覚に振り回されない地域
- ・ 自然と共生した暮らしが続けられる地域、本当の豊かさとは何かがわかる地域
- ・ 多様な職や暮らしが共生するモノカルチャーでない地域、世代間交流の図られている地域、大人の知恵や技を子ども達に伝える仕組みのある地域
- ・ 故郷